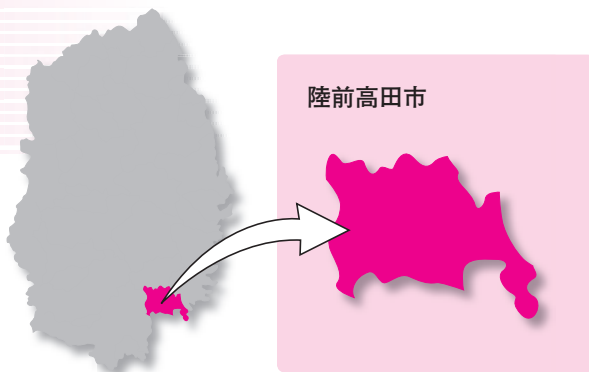


おもちゃからつながる(和)・(輪) ～あつまれ 元気っ子!～



陸前高田市

子ども達はゲームばかりしていませんか？
遊びながらリハビリしませんか？

陸前高田市では、子育て支援や子ども達の健全育成、また高齢者や障がい者のリハビリなどを目的に、「おもちゃ美術館」を開設。そのおもちゃ美術館の有効活用として「子ども土曜クラブ」「子ども土曜教室」を開講しました。

学校、地域の指導者、ボランティア、民生委員、社協が手を取りながら活動しています。



移動おもちゃ美術館「特別養護老人ホームにて」

■ 一人の民生委員の思いから

学校週5日制完全実施に伴い、陸前高田市では行政主導で、平成14年子供の居場所事業が市内11小学校区ごとに展開されました。

そんな中、平成15年6月「主任児童委員研修会」が花巻会場で開催され、その講話は、東京で芸術教育研究所多田千尋所長のお話でした。

その研修会に参加した一人の民生委員が講話に大変共感し、感銘を受け陸前高田市内でもぜひ実現できないかと思ったのがきっかけでした。

この方は、長年教育の現場で働いた経験を活かし、退職されてからも子ども達に対する愛情や情熱は人一倍強く、子ども達の居場所事業として放課後や土曜日に仲間遊びのできる場を作ってあげたい、群れ遊びをさせたいという願いから地域の人達やボランティアの方のお世話を受け「やまびこクラブ」を立ち上げた人でもあります。

当社協でも、少子化社会の中で子ども達の遊びが室内での一人遊びが増加している現状を踏まえ、子育て支援

や子ども健全育成に何か出来ないものかと模索していた最中でした。「おもちゃ」を媒体として、児童だけでなく高齢者や障がい者のリハビリや多世代交流、地域交流の場にもつながっていくのではないかと考え、民生委員の考えに賛同し、ぜひ「おもちゃ美術館」を開館させたいと立ち上がったのです。



おもちゃ美術館って楽しい!

おもちゃドクターがおもちゃの修理

■ 平成16年3月『おもちゃ美術館』誕生!

おもちゃ美術館という、各種のおもちゃを集め、一般の方に見せるだけの施設を想像されがちですが、もちろん一つ一つ手に取って遊べる場所です。

地域に伝わる伝承おもちゃや手作りおもちゃを含めて、世界のおもちゃを取蔵展示し、遊びが育てる世代間交流として心と心のふれあいを深める場。子育て支援や子どもの遊び場づくり事業、子どもから大人まで、高齢者も障がい者も一緒に楽しめるおもちゃは、人と人とのコミュニケーションを育む事ができる道具です。

まず、社協と民児協児童福祉部会で運営委員会を組織し、話し合いが始まりました。購入おもちゃのリストアップや運営経費など、さまざま検討を重ね、場所には、市内中心部の多目的施設である「ふれあいセンター」の中でも、社協の事務所の隣で誰もが気軽に訪れやすいオープンスペースの一角をあてました。

おもちゃを購入する経費は共同募金会の配分を受け、40点の世界のグットイ(よいおもちゃ)を集めました。

県内にある2カ所の施設へ視察も行いました。

運営委員の中から社協職員と民生委員の2名がおもちゃインストラクターの養成研修を受けた他、スタッフとしておもちゃを直してくれるおもちゃドクターに元大工さんをお願いしました。協力員(サポーター)として子育て中の現役ママ2名を配置し、平成16年3月に「陸前高田おもちゃ美術館」が誕生しました。

陸前高田市社会福祉協議会

陸前高田市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを目指しています。

ボランティア活動に興味のある方、気軽に声をかけて下さい。

また、何か悩み事がありましたら、ふれあい総合相談所へお越し下さい。

〒029-2205

陸前高田市高田町字館の沖138

陸前高田市ふれあいセンター内

TEL：0192-54-5151・54-5150

FAX：0192-54-4775

ご利用時間：月曜～金曜／8：30～17：30

休日・夜間でも9時までは管理人が電話対応します。



■ 子どもの笑顔は地域の宝

おもちゃ美術館への来館者は、年間延べ800人以上です。また、団体限定ですがおもちゃの館外貸出も行っており、利用は年間30件を超えています。

イベント事業としては、ワークショップ「世界のおもちゃで遊ぶ会」や、手作りおもちゃの会、おもちゃ病院の開設があります。移動美術館として、特別養護老人ホーム等福祉施設での交流会も実施しています。ワークショップには30人程の参加者があり、皆、時間を忘れる程遊びに夢中になりました。施設訪問時も、利用者に大変喜ばれています。

また、社協の宅老所「はまなすの家」にも別館を開設し、高齢者のみならず、放課後児童の居場所として利用されています。財政面では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、おもちゃや保管場所の維持・整備を行い、おもちゃも現在約100点まで増やすことができました。

18年には、美術館の有効活用と活動の充実のため、小学生の群れ遊びを目的とした「土曜クラブ」、その発展型として、趣味や特技を豊かにする「土曜教室」を開講、隔週土曜の午前にセンターに集まり、将棋や日本舞踊、茶道、大正琴、百人一首等に楽しく取り組んでいます。

■ 子ども達の豊かな成長を願って

開館してから5年目を迎えています。課題もあります。美術館は基本的に専門に管理する方がいないので、子どもが遊んだ後の後片付け等管理がなかなか難しいこと。



「土曜教室」茶道のお点前

月1回点検日を設けていますが、活動する委員が固定化され負担が多くなること等です。開館日、開館時間等や運営管理体制の検討が必要と考えています。

おもちゃ美術館の充実を図ろうと土曜クラブを立ち上げた訳ですが、実際1年しか実施できませんでした。それは、土曜教室も開講された現在、土曜クラブと土曜教室の両立は不可能という事で土曜教室へ移行しました。

月謝を払うとなると大変な中、無料で伝統文化の継承、技能を習得させ児童の感性や情緒を豊かにし、健やかな人間形成が期待できると、参加者は昨年度より増えています。

20年度5つの教室から始めたのですが、書道教室も増やして欲しいとの声もあります。

今後も継続していくためには、スタッフ体制の強化や約束ごと、開催日変更等の周知徹底や確認を行い、より充実した運営を目指したいと思います。



「土曜クラブ」手作りおもちゃ教室



世界のおもちゃで遊ぶ会